

武蔵国分寺跡 史跡指定100周年記念
東京文化財ウィーク2022参加企画展



史料に見る国分寺のあゆみ

江戸時代の村々

東京都公文書館・国分寺市教育委員会共催企画展

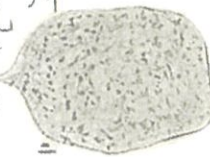
准古国分寺伽藍

一行ニテ、
廿八間四面礎石也

古瓦工鳥佛作レルモノカ
享保大年丑秋伊勢國ヨ此所
營ニトスルニ古キ瓦ノアリヲ見テ云ク凡人
作ニアラスト申ス其瓦ノウラニ布目ノ紋アリ
表方ニ麻ノ葉ノ紋アリテ細工ノ見事
ナルヲ今ノ世ニ出来ケタリト云
聖徳太子ノ時鳥仙師ト云モノ出佛ヲ
作リ堂寺ヲ作リ抄作セシヲアリ又
ヲモ作レリト和漢三六回會卷五十三
和國部ニ出タリ

裏ノ方如此
布目アリ

國分寺廢趾古瓦
表ノ方
如此



准古国分寺
伽藍礎石

古カハラ

令和4年 10月21日(金) - 12月20日(火)

入場無料

会場 東京都公文書館企画展示室 (所在地: 東京都国分寺市泉町二丁目2番21号)

開催時間 9時~17時まで (入室は16時30分まで) 休館日 日曜・祝日・第3水曜日 (11月16日)

現在の国分寺市域は、江戸時代初期には国分寺村・恋ヶ窪村という中世以来の村落のみが存在し、大部分は未開の原野でした。その後、江戸時代中期の享保年間（1716-36）以降、玉川上水から水を引いて市域西側の開発が進み、8つの新田村落が成立していきました。

この企画展では、国分寺市の土台となったこれらの村々について、市内に残された貴重な古文書からそのすがたを探っていきます。

今年は、ちょうど武蔵国分寺跡史跡指定100年という節目を迎えました。このかけがえのない史跡が残されてきた経緯と、史跡指定に至る過程を紹介する特設コーナーとあわせて、あらためて国分寺地域の歴史を振り返る機会としていただければ幸いです。

本展示は、国分寺市教育委員会と東京都公文書館の共催企画展として開催します。



構成

- 1章 国分寺市になった村々
- 2章 水と生きる・水を活かす
- 3章 在村文化と人々の交流

常設展示室内企画コーナー：国分寺址の史跡指定



東京公文書館 東京都国分寺市泉町二丁目2番21号

【お問い合わせ先】

東京都公文書館：042-313-8450
国分寺市ふるさと文化財課：042-300-0037

【東京都公文書館HP】

<https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/01soumu/archives/>

【交通機関】

JR中央線・武蔵野線「西国分寺駅」徒歩約8分
京王バス・寺85系統「いずみプラザ前」徒歩約4分
ぶんバス・万葉けやきルート、北町ルート、日吉町ルート「西国分寺駅東」徒歩約5分

※ご来館の際は公共交通機関をご利用下さい。車、バイクで来られる方は近隣の駐車場ご利用下さい。なお、身体障害者用の駐車スペースをご用意していますので、ご利用の際には事前にお問い合わせ下さい。自転車は、駐輪スペースをご利用下さい。

